

JAMの主張

藤川しんいちを国政へ

2016 春闘 賃上げで人材確保

機関紙 J A M 2016 年 1 月 1 日発行 第 202 号

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様におかれては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。

さて、グローバル化による国際競争の激化や、少子化による労働力人口の減少など、構造的な環境の変化を背景に、企業の人件費抑制を軸とした労務政策が続いてきましたが、近年は大手企業などを中心に企業業績が持ち直すなど、雇用のひっ迫感も強まっています。

人材を確保するためには、若年層の賃金水準の改善のみならず、全体的な賃上げが欠かせません。そのためには賃上げによるデフレからの脱却と、持続的な景気回復を確実にすることがまた不可欠な条件といえます。

私たちは、2016 年春季生活闘争の取り組みを通じて、「人材不足」、「技能伝承」などをはじめ、多くの直面する課題を労使で共通認識し、その解決をめざします。さらに春闘で得られる賃上げ効果を社会的に拡大させていくためには、未組織労働者の組織化が欠かせない課題であることを自覚し、「アタック 50」の取り組みを前進させていかなければなりません。

ものづくり産業や地場中小企業が元気を取り戻し、魅力ある産業として雇用を創出し、人材を定着させ、ものづくり産業を中心とした経済の好循環を実現させていくことは、J A M 運動の柱の一つでもあります。

2016 年 7 月施行予定の第 24 回参議院選挙での J A M 組織内候補予定者である「藤川しんいち」副会長を、津田やたろう議員の後継者として国政に送る活動は、2016 年春季生活闘争の取り組みとともに「運動の両輪」として、全組合員の総力を結集して取り組んで参ります。

結びに、関係労使の益々のご繁栄とともに、本年が皆様にとって幸多き年となりますようお祈り申し上げます。